

# 秋田市役所 職員座談会(行政職)

〈参加者〉平成27年度採用職員



左から

浅井 康児

①保護第一課 ②議事課

畠山 智里

①市民課 ②総務課

渡部 真由

①市民税課 ②障がい福祉課

佐藤 亮介

①国保年金課収納推進室

②文化庁派遣 ③企画調整課

※下線が現在の配属先です。

## 〈現在担当している仕事を教えてください〉

畠山:総務部総務課の行政管理・改革担当で、業務改善や事務の適性化、事務マニュアルチェックなどの業務を行っているほか、庁内の調整・連携や取りまとめを行っています。

浅井:議会事務局議事課の調査担当で、委員会の運営や会議録の作成、議員から依頼があったときの調査のほか、議会の広報に関する業務などを行っており、ホームページの更新や年4回の「あきた市議会だより」の発行をしています。

渡部:福祉保健部障がい福祉課の医療給付担当で、障がい者向けの福祉医療制度の受給者証の発行などの対応や、日常生活用具事業を担当しており、障がい者用の紙おむつの給付など日常生活に必要な物品の給付をしています。

佐藤:企画財政部企画調整課の新文化施設整備担当で、秋田県と連携して「あきた芸術劇場」という新しい劇場を整備する仕事を担当しています。老朽化した「秋田県民会館」と大規模改修が必要な「秋田市文化会館」を継承する劇場として、令和4年6月の開館に向けて整備を進めているところです。その中で、予算関係のほか、県・指定管理者との調整などを担当しています。



## 〈秋田市職員を志望した動機を教えてください〉

畠山:学生時代に秋田市の事業(成人の日式典の実行委員会)に参加し、自分たちで考え行動したことが、事業に反映されていく過程を体験したことがきっかけです。イベントやまちづくりといったことに自分の意見を反映させることが出来るのが、行政の仕事かなと思い、志望しました。

浅井:大学の授業で住民の自宅に訪問し、要望の聞き取りなどの実態調査をしたことがありましたが、住民に近い立場で仕事をしたいと考え、市役所を志望しました。また、転勤の範囲がほぼ秋田市内に限定されるため、今後の人生設計の見通しを立てやすいと思ったことも理由の一つです。

渡部:小さい頃から国際交流や海外の方の受入に興味がありました。市役所であれば、魅力を外に向けるだけでなく、海外の方の受入にも携われるかなと思って志望しました。また、人の役に立てる仕事をしたいとも考えていて、行政の立場であれば人の役に立ちながら広く挑戦できると考えました。

佐藤:県外の民間企業で働いていく中で、生まれ育った秋田市のために何か出来ることはないかと考え、秋田に帰って転職しようと思いました。また、民間企業に勤めていると、どうしても会社の業績やノルマを意識することが多いですが、所属組織のためではなく、そこに住んでいる“人”の役に立つ仕事がしたいと思ったのも大きな志望動機の一つです。

## 〈他の自治体も受験しましたか〉

畠山:他にも興味のある自治体等を受験しましたが、もしそちらを選んでいても、いずれは秋田で働きたいという気持ちを持っていました。

渡部:県庁なども考えましたが、県で働いている人の話も聞いて、住民に近い所で働ける市役所のほうが、私には合っているかなと思っていました。

## 〈職場の雰囲気教えてください〉

佐藤:公務員は真面目で堅そうなイメージを持っていましたが、実際は明るい人が多くて、コミュニケーションが取りやすい雰囲気です。また、チームで仕事をしているという意識が強く、困っていれば「どうしたの?」「手分けしてやろうか?」などと気軽に声をかけてくれます。

渡部:相談しやすい雰囲気が出ています。人事異動したときも暖かく迎えてくれて、同年代の職員だけでなく、上司も話しやすい人が多いです。

浅井:異動して1年目で何も分からない状態でしたが、「何でも聞いてね」という言葉をかけていただきました。実際に聞いても丁寧に教えてくれて、とてもいい雰囲気で仕事が出ています。また、業務上、緊張感を持つことが多いのですが、全員で協力して議会運営を行おうとしています。

畠山:私も皆さんと同じで、チームで仕事をしているという感じです。窓口を担当していた職場から、現在の庁内調整を担当する職場に異動してきて、最初は戸惑いましたが、仕事のことを聞きやすい環境でした。



## 〈入所前に想像していた市役所像と、現在感じている市役所像で違いはありますか〉

佐藤:住民票の発行などの窓口業務のイメージが強かったのですが、実際に働いてみて、業務範囲の広さに驚きました。また、一つの課所室で完結する仕事の方が少なく、他部署、国や県との調整・連携が必要で、仕事を進めていく上で、コミュニケーション能力や調整能力が試される場面がよくあることも驚きでした。

渡部:私は、シーンとして肅々と書類に向かっているイメージを持っていましたが、実際は来庁者にとっても親身になって業務を行っていて、温かい雰囲気で市民に接していると感じました。一律に対応しているというよりも、その人に合わせた支援・対応をしていると思います。

浅井:繁忙期の忙しさは想像以上でした。また、想像していた以上に幅広い業務を行っているので、いろんな業務に携われる可能性があって面白いなと思いました。

畠山:私は窓口業務や竿燈などのイベントを開催しているというイメージでしたが、実際は多岐にわたる仕事があって、それを支えるような、事務ミスをなくすといった裏方の仕事があって、という全部で市役所が成り立っていると感じました。いろんな視点・角度からアプローチできるなと感じています。

## 〈人事異動って大変ですか〉

浅井:担当する業務が生活保護業務から議会の業務になり、仕事が180度変わって、別の職場に来た感覚でした。どのような仕事をするのかも分からない状態だったので大変でしたが、新たな気持ちで勉強して、知らないことを覚えられて良かったなと思っています。

渡部:市民税課から障がい福祉課に異動しましたが、どちらも学生時代にやってきた分野と違ったため、覚えることは多かったです。ただ、医療費助成の制度に該当するかどうかは税の情報など市民税課で覚えた知識を使うこともあり、仕事がつながっていることも多いです。新しいことを覚えるのは大変ですが、マニュアルも用意されていたりして、覚えるためのサポートもしっかりしています。





佐藤: 人事異動は大変というよりは、自分自身の成長の機会であると考えています。企画調整課の前は文化庁に研修生として2年間派遣させてもらい、市役所では経験できないような仕事をたくさんさせていただきました。派遣と聞いたときは、「なぜ自分が…」と驚きましたが、若手のうちに行けるのはチャンスだと捉えました。

畠山: 総務課がなにをやっているか分からなかったですし、課が変わったら何も出来ないんじゃないかと不安だったのですが、先輩に質問すると根拠も含めて丁寧に教えてくれました。また、別の仕事ではありますが、これまで学んだ事務処理や法律の経験が生きていると感じています。

## 〈余暇活動の時間は取れますか〉

渡部: 忙しい時期もありますが、基本的には土日は休めます。連休にくっつけて年休も取りやすいように配慮してくれるため、新型コロナウイルスが流行する前は連休にして外出などもできていました。

浅井: 議会会期中以外は休みもとれていて、メリハリがしっかりしています。市役所の野球部に所属していて、新型コロナウイルスが流行する前は県内や東北各地、東京などで大会に参加していました。練習は週2~3日で、職場だけでなく野球部員との繋がりもあってとても楽しいです。

畠山: 私も休日に出掛けるなどして、オンオフの切り替えができています。



佐藤: 繁忙期は大変ですが、ワークライフバランスが取れていると思います。私も浅井さんとは別の野球チームに所属していて、平日の仕事終わりにナイターで試合をしたりしています。イベントなどがなければ土日祝日は休めますので、昨年生まれた息子との時間をゆっくりと楽しんでいます。



## 〈仕事のやりがい・達成感を感じる時は、どのようなときですか〉

畠山: どの課がどういう仕事をしているか把握した上で、市役所の業務が正しく行われるようにするという仕事で、直接ではなくても市民のためになっていると感じられ、それがやりがいにつながっています。

浅井: 広報誌(あきた市議会だより)の発行をしています。市議会議員のみなさんで構成している編集委員会で話し合って原稿を作成し、それが形になって皆さんの家に配られたときは達成感を感じます。

渡部: いろんな障がいを持っている方に接する仕事で、そもそもこの仕事に就かなければ、そのような存在に気づくことも出来なかったと思っています。そうした方に向けて支援・補助ができることにやりがいを感じています。

佐藤: なかなか目に見える仕事ばかりではないですが、市民との距離感が近く、応じた市民から感謝されると、やりがいを感じます。今の仕事は議会対応なども多いのですが、無事に議案を通すことができたときなど、大変な分、達成感も大きいです。また、「あきた芸術劇場」が来年無事にグランドオープンを迎える日を想像すると、ものすごい達成感じゃないかなと思っています。



## 〈受験生へメッセージ〉

畠山: 市役所の仕事は多岐にわたるので、広い知見を持つことが必要だと感じています。また、社会情勢の変化を捉えて対応することが求められると思います。これからの秋田市をより良くするために、ぜひ一緒にがんばりましょう。

浅井: さまざまな仕事ができることや、地元の友人・家族と一緒に時間を過ごせながら働けるのが魅力の一つです。何がしたいか分からなくても、いろんな業務があるので入ってからやりたいことを探すということもできると思います！

渡部: いろんな仕事があるので、いろんな人を受け入れる体制が整っています。私もどんなことをしているんだろう、という感じで入所しましたが、優しく受け入れてくれて、楽しく仕事が出来ています。安心して秋田市役所に来てください。

佐藤: 公務員試験の勉強など大変だと思いますが、最後まで諦めずに挑戦してほしいです。秋田市は中心市街地の活性化など、目に見えて、まちも大きく変わってきており、やりがいのある仕事がたくさんあります。熱意のある皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。